

■ つちざき 土崎築港、電灯の大恩人

近江谷 栄次

おうみや えいじ

出身地 八郎潟町

1874年（明治7年）～1942年（昭和17年）

秋田銀行、つちざき土崎信用組合のそうりつ創立、おうみや近江谷発電所・いわ岩見川発電所の建設、つちざき国鉄土崎工場のゆうち誘致、つちざき土崎港の築港運動など産業開発に先見性をもったけいせい経世家である。天性詩文に長じ、はいく俳句をよくした。こまきおうみ小牧近江の父。



年譜

- 1874年 はちろうがた八郎潟町に生まれる。旧姓・きゆうせい畠山、幼名・はたけやま留吉。
- 1889年 県立秋田中学校中退。栄治をしゅうめい襲名、のち栄次。
- 1896年 秋田銀行の設立に参加。監査役。かんさやく
- 1899年 ひろ い いさみ廣井勇を私費で招請。土崎港の築港に尽力。じんりよく
- 1901年 おうみや近江谷火力発電所の建設。国鉄土崎工場のゆうち誘致運動。
- 1904年 しゅうぎいん衆議院議員。
- 1910年 ブリュッセルの第1回万国議員会議に出席。
- 1916年 つちざきみなと土崎港町長。
- 1942年 東京都で没。ぼつ68歳。さい